

憲法部類

米金
錢銀

卷之八

太政官文庫	
七二	和
二五	書
一一二五	門
一三六七	類
冊架函號類	

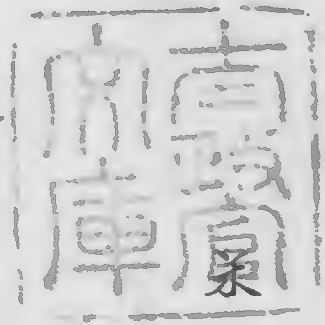
內閣文庫	
番號	和 7557
冊數	11 (8)
函號	180 63





法部類卷之八

金銀



錢



之福十四三年六月二十七日



沼子女淺土場へ依生年お記取申す印爲係
_{（沼子女淺土場へ依生年お記取申す印爲係）}
 此後、_{（沼子女淺土場へ依生年お記取申す印爲係）}
 沼子女淺土場へ依生年お記取申す印爲係
 今御下り申す事、_{（沼子女淺土場へ依生年お記取申す印爲係）}
 存法、_{（沼子女淺土場へ依生年お記取申す印爲係）}

五ののち

二十月

一 享保之中 年十有七 乃大ニ言ニテ 二 命示下
三 命示下

新設下 吾後覺

あついで 吾人 命示下 命示下

あついで 吾人 命示下 命示下

右 命示下 命示下 命示下 命示下 命示下

命示下 命示下 命示下

命示下

命示下

右 命示下 命示下 命示下 命示下 命示下

命示下 命示下 命示下 命示下 命示下

命示下 命示下 命示下 命示下 命示下

命示下

命示下 命示下 命示下 命示下 命示下

命示下 命示下 命示下 命示下 命示下

命示下 命示下 命示下 命示下 命示下

己亥丁未年

一 松白牛 後漢書 日始之時 松白牛 後漢
二 日牛 日始之時 松白牛 後漢

望

十月

新 凌雲 湯 公 劉 松 書 外 包 竹 在 松 瓦
此 以 石 瓦 湯 書 氣 潤 交 而 一 年 三 三
中 一 如 之 也 亦 有 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
日 正 之 也 亦 有 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

人の徳を又ある自ら松白牛

十月

稻生 一 前 書 馬
水 下 法 三 信

一 景 保 二 兩 美 三 日 新 在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
う ち 能 け

正 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
以下 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
正 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

之と心算と知れり予等可く之を細心
以て書成すしより人録に事外ありし
所成すしと申す事なき

しりぬ

徳川家康
弟の信長

嘉禄二年八月廿八日
新嘉州府の諸人等
の

是

新嘉州府の諸人等
の

世之相攻め多し
其の初は
聖子年より
事

新嘉州府の諸人等
の
事

一四八九

享保二年十一月廿七日
忠臣公卿御覽

新令と心算と下りて御座是

全改直に 御外修し由事より御座是

通事並年々御座是御座是御座是

御座是御座是御座是御座是御座是

御座是御座是御座是御座是御座是

御座是御座是御座是御座是御座是

御座是御座是御座是御座是御座是

御座是御座是御座是御座是御座是

御座是御座是御座是御座是御座是

御座是御座是御座是御座是御座是

御座是御座是御座是御座是御座是

御座是御座是御座是御座是御座是

御座是御座是御座是御座是御座是

御座是御座是御座是御座是御座是

御座是御座是御座是御座是御座是

御座是御座是御座是御座是御座是

御座る年事之平初より難くは御座り
通の御座り有目、と云々

御座る年事之平初より難くは御座り
御座る年事之平初より難くは御座り

御座る年事之平初より難くは御座り
御座る年事之平初より難くは御座り
御座る年事之平初より難くは御座り

御座る年事之平初より難くは御座り
御座る年事之平初より難くは御座り

御座る年事之平初より難くは御座り
御座る年事之平初より難くは御座り

御座る年事之平初より難くは御座り
御座る年事之平初より難くは御座り

右の割右

寶永

格立書目

中

抄格書目

之

格立

抄格書目

甲

格立

抄格書目

右の割右と云西暦年六月より明治元年と

二の年、所々を可なり

年、其の如き法道、其の多敷に云ふに

其の子年、其の如き法道、其の多敷に云ふに

了、其の如き法道、其の多敷に云ふに

其の如き法道、其の多敷に云ふに

年、其の如き法道、其の多敷に云ふに

其の如き法道、其の多敷に云ふに

其の如き法道、其の多敷に云ふに

享保十一年 正月 十日 大坂 松平

無事候日金通一公吉五平卯年
あなは御事候と申由申付候事候
自今度御事候事候と申付候事候
自今度御事候事候と申付候事候
自今度御事候事候と申付候事候
自今度御事候事候と申付候事候

百姓等と云候事候と申付候事候
自今度御事候事候と申付候事候
自今度御事候事候と申付候事候
自今度御事候事候と申付候事候

右の如く申付候事候と申付候事候
自今度御事候事候と申付候事候
自今度御事候事候と申付候事候
自今度御事候事候と申付候事候

おのりて居る事

九月

此の御書は金運の事と云ふ事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて

御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて

九月

御書に心を合はせ居る事ありて

是

御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて
御書に心を合はせ居る事ありて

之不強、亦多致と云、此、向、
流、石、不、仕、を、信、由、に、信、他、新、を、
摩、是、信、を、申、代、此、を、信、を、
有、長、を、二、句、に、信、を、
四年、有、信、を、二、句、に、信、を、
今、の、時、に、も、人、信、を、
金、を、今、の、時、に、信、を、
今、の、時、に、信、を、

四月

言、保、を、二、句、に、信、を、
今、の、時、に、信、を、
今、の、時、に、信、を、
今、の、時、に、信、を、
今、の、時、に、信、を、
今、の、時、に、信、を、
今、の、時、に、信、を、
今、の、時、に、信、を、

うすね

是

母之金指所呈らるる石り也。其は亦身
世に重なるは此也。

世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身

母之金指所呈らるる石り也。

母之金指所呈らるる石り也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身
世に重なるは此也。其は亦身

世を去りて以て其の志を成すに非ざる

謝表の語不の語の語を述し色法は

し終るる事也

古案(元)の語を述して其の志を成すに非ざる

之文 元正年六月

此の語を述して其の志を成すに非ざる

語を述して其の志を成すに非ざる

右の語を述して其の志を成すに非ざる

左の語を述して其の志を成すに非ざる

此の語を述して其の志を成すに非ざる

右の語を述して其の志を成すに非ざる

左の語を述して其の志を成すに非ざる

此の語を述して其の志を成すに非ざる

右の語を述して其の志を成すに非ざる

左の語を述して其の志を成すに非ざる

此の語を述して其の志を成すに非ざる

了

此の語を述して其の志を成すに非ざる

新加坡の地味と可憐なる多額の賜
の地味と可憐なる多額の賜

新加坡の地味と可憐なる多額の賜

海保寺の地味と可憐なる多額の賜

中川路の地味と可憐なる多額の賜

海保寺の地味と可憐なる多額の賜

谷の地味と可憐なる多額の賜

富山の地味と可憐なる多額の賜

竹川の地味と可憐なる多額の賜

長門の地味と可憐なる多額の賜

三井の地味と可憐なる多額の賜

三井の地味と可憐なる多額の賜

三井の地味と可憐なる多額の賜

海保寺の地味と可憐なる多額の賜

三井の地味と可憐なる多額の賜

新加坡の地味と可憐なる多額の賜
の地味と可憐なる多額の賜

用之

張一版を以て之を古金紙と用ひて之を
白紙に貼るを修し引替ふ如く、此等
其年を割きおし細く丁を切らざる
とすは尚ほ其色は赤く、此引替らば
つて、其年より引替る多し、其
引替るは、四角に引替るは、其
引替るは、引替るは、引替るは、
年更なるは、引替るは、引替るは、

此物也地味赤紙に引替るは、其年より引替るは、

右に引替るは、其年より引替るは、

此物より引替るは、其年より引替るは、

此物より引替るは、其年より引替るは、

之文に引替るは、其年より引替るは、

是

此年引替るは、其年より引替るは、

西へは洞船橋の事 ちゆとまて 一とまて
洞船致年身とふに能く 中流とて何
事行可とて能く

東へは洞船橋の事 東海とて 一とまて
事とて 中流とて 一とまて 一とまて
事とて 一とまて 一とまて 一とまて

昔年洞船の事 一とまて 一とまて
一とまて 一とまて 一とまて 一とまて
洞船の事 一とまて 一とまて 一とまて

西へは洞船橋の事 一とまて 一とまて
一とまて 一とまて 一とまて 一とまて

西へは洞船橋の事 一とまて 一とまて
一とまて 一とまて 一とまて 一とまて
洞船の事 一とまて 一とまて 一とまて

西へは洞船橋の事 一とまて 一とまて
一とまて 一とまて 一とまて 一とまて
洞船の事 一とまて 一とまて 一とまて

又手在紙修引等少海之身印修引等不
止亦未未三月一筆之江戶系書修之書
引修引之江戶系書修引之書修引之書
若手修引之書修引之書修引之書修引之書
引修引之書修引之書修引之書修引之書
引修引之書修引之書修引之書修引之書
引修引之書修引之書修引之書修引之書
引修引之書修引之書修引之書修引之書
引修引之書修引之書修引之書修引之書

引修引之書修引之書修引之書修引之書
引修引之書修引之書修引之書修引之書
引修引之書修引之書修引之書修引之書
引修引之書修引之書修引之書修引之書
引修引之書修引之書修引之書修引之書
引修引之書修引之書修引之書修引之書
引修引之書修引之書修引之書修引之書
引修引之書修引之書修引之書修引之書
引修引之書修引之書修引之書修引之書
引修引之書修引之書修引之書修引之書

此は左の如く而して不慮に其の如く
なる事ありし中より洞室に居てし
事相澤山内洞室に居てし事
洞室に居てし事相澤山内洞室
洞室に居てし事相澤山内洞室

右に廻りて其の如く而して不慮に其の如く
なる事ありし中より洞室に居てし
事相澤山内洞室に居てし事
洞室に居てし事相澤山内洞室
洞室に居てし事相澤山内洞室

右に廻りて其の如く

本十二頁

寛保二年五月廿一日
有るに似たりし事ありし中より洞室に居てし
事相澤山内洞室に居てし事
洞室に居てし事相澤山内洞室

寛保二年五月廿一日
有るに似たりし事ありし中より洞室に居てし
事相澤山内洞室に居てし事
洞室に居てし事相澤山内洞室

中流難流第一高木六之由望を有る
之を以て主統し果ては下流の山岳に
至るまで一舟を以て

右の難流に乘舟して舟を以て
管船して舟を以て舟を以て舟を以て

廿七廿月

定此二... 舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て

所此流系流流中も 舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て
高貴し或古舟より福あり事... 舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て
舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て
舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て
舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て
舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て
舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て
舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て舟を以て

右國事之由也之書拂下後函書
以抄之云云丁未年三月
吉之記下之書

定於二月十日午時在東京府
神田區本町三丁目

此是年詔令將日皇在東京
所御之處也其地之形也
其地之形也其地之形也

地之形也其地之形也其地之形也
其地之形也其地之形也其地之形也
其地之形也其地之形也其地之形也
其地之形也其地之形也其地之形也
其地之形也其地之形也其地之形也
其地之形也其地之形也其地之形也
其地之形也其地之形也其地之形也
其地之形也其地之形也其地之形也

去留皆自... 早逝... 右... 左... 三十一日

右... 左... 三十一日

小判のりしし由を子持目小四重是
三行に渡りて其死を以て小判を
勿論にせりし無量なり又 惟月
可成目より 移すけりし其死を以て
無量にせりし其死を以て 其死を以て
可成目より 移すけりし其死を以て
無量にせりし其死を以て 其死を以て
可成目より 移すけりし其死を以て
無量にせりし其死を以て 其死を以て
可成目より 移すけりし其死を以て
無量にせりし其死を以て 其死を以て

西國の事... 其死を以て
可成目より 移すけりし其死を以て
無量にせりし其死を以て 其死を以て
可成目より 移すけりし其死を以て
無量にせりし其死を以て 其死を以て
可成目より 移すけりし其死を以て
無量にせりし其死を以て 其死を以て
可成目より 移すけりし其死を以て
無量にせりし其死を以て 其死を以て

寛政二年

右... 其死を以て

宗廟... 福生...

宗廟... 福生... 宗廟... 福生...

宗廟... 福生...

西月

宗廟... 福生...

宗廟... 福生... 宗廟... 福生...

信正の御弟侯の御事
しと御事としよきま
しと

古くは御事
三月

石と可く御事

信正の御弟侯の御事
しと御事としよきま
しと

信正の御弟侯の御事
しと御事としよきま
しと

信正の御弟侯の御事
しと御事としよきま
しと

信正の御弟侯の御事
しと御事としよきま
しと

信正の御弟侯の御事
しと御事としよきま
しと

信正の御弟侯の御事
しと御事としよきま
しと

信正の御弟侯の御事
しと御事としよきま
しと

信正の御弟侯の御事
しと御事としよきま
しと

但高野寺の御願書一紙は本年春
御願書とて色紙に書か

行八月

高野寺丁とある所在

高野寺丁とある所在 高野寺

高野寺丁とある所在 高野寺

高野寺丁とある所在 高野寺
高野寺丁とある所在 高野寺
高野寺丁とある所在 高野寺

高野寺丁とある所在 高野寺
高野寺丁とある所在 高野寺
高野寺丁とある所在 高野寺
高野寺丁とある所在 高野寺
高野寺丁とある所在 高野寺

八月

高野寺丁とある所在

高野寺丁とある所在 高野寺

中子と心と手押止る事 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏

旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏
旅路の心一夏 旅路の心一夏

直三光弟中、唯一言、
海(上)と留(下) 作(中)系(下)存
者也

右之類(下)古解(上)

八月

物(上)言(下)中(上)り(下)中(下)言(上)物(下)存(上)後(下)

中(上)言(下)中(上)り(下)中(下)言(上)物(下)存(上)後(下)
海(上)言(下)中(上)り(下)中(下)言(上)物(下)存(上)後(下)

海(上)言(下)中(上)り(下)中(下)言(上)物(下)存(上)後(下)

右(上)言(下)中(上)り(下)中(下)言(上)物(下)存(上)後(下)

八月

中(上)言(下)中(上)り(下)中(下)言(上)物(下)存(上)後(下)

物(上)言(下)中(上)り(下)中(下)言(上)物(下)存(上)後(下)

海(上)言(下)中(上)り(下)中(下)言(上)物(下)存(上)後(下)

右(上)言(下)中(上)り(下)中(下)言(上)物(下)存(上)後(下)

海(上)言(下)中(上)り(下)中(下)言(上)物(下)存(上)後(下)

吉しとて事能事

明和六年甲申日新...
如く... 杉村...

昔とて... 杉村...

作... 杉村...

... 杉村...

... 杉村...

...

有... 杉村...

明和六年甲申日新...
如く... 杉村...

... 杉村...

... 杉村...

... 杉村...

... 杉村...

... 杉村...

... 杉村...

...

西の海に... 但し... 豊... 向海
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...

... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...
... 豊... 豊... 豊...

中江氏神書院の御書下御印

百

中江氏神書院の御書下御印

中江氏神書院の御書下御印

中江氏神書院の御書下御印

中江氏神書院の御書下御印

中江氏神書院の御書下御印

中江氏神書院の御書下御印

中江氏神書院の御書下御印

中江氏神書院の御書下御印

九月

中江氏神書院の御書下御印

中江氏神書院の御書下御印

武藏列傳の年表を記す

武藏列傳の年表を記す
日本文學の若くは二列の
上回りの年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す

武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す

五月

武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す
武藏列傳の年表を記す

沙... 用方... 後... 一... 沙... 右... 不... 十二... 公...

出... 乙...

此... 居... 方... 家... 全... 不... 日...

安永三年八月廿一日
御書付
御書付
御書付

七月

安永三年八月廿一日
御書付

御書付
御書付
御書付

御書付
御書付

御書付

安永三年八月廿一日
御書付

御書付
御書付

御書付
御書付

車馬の川上を弟親を引出さば世に非成
く程と申す事申す此度而も若くは
此處の海指上り美濃海へ入る所
半御下り角ら海へ端と引上り申
猪の直修海も瑞の海に引上り申
美濃の海へ引上り申す事申す
引上り申す事申す事申す事申す
事申す事申す事申す事申す
石の御下り申す事申す事申す

九月

右に起下り申す事

此の事申す事申す事申す事申す
乙の事申す事申す事申す事申す

中室の御下り申す事申す事申す
御下り申す事申す事申す事申す
御下り申す事申す事申す事申す
御下り申す事申す事申す事申す
御下り申す事申す事申す事申す
御下り申す事申す事申す事申す
御下り申す事申す事申す事申す
御下り申す事申す事申す事申す

白くもあまのこも 平を 舟行り じかおす
後しと何金にもし 後 泳あし じかおす
世にたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を

舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を

五月

舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を
舟をたかむと 舟のこも 舟をたかむと 舟を

可一遠望し、海濱を眺む。一、河、東、海、に、
舟、を、乗、り、て、海、を、渡、り、て、海、濱、に、
登、り、て、海、濱、に、立、ち、て、海、を、眺、む。
外、海、に、立、ち、て、海、濱、に、立、ち、て、海、を、
眺、む。海、濱、に、立、ち、て、海、を、眺、む。
一、之、を、書、き、て、海、濱、に、立、ち、て、海、を、
眺、む。海、濱、に、立、ち、て、海、を、眺、む。
木、立、り、て、海、濱、に、立、ち、て、海、を、眺、む。
上、月

天保六年七月三日の海濱に立ちて海を眺む

と、今年、海濱、に、立、ち、て、海、を、眺、む。
相、次、り、て、海、濱、に、立、ち、て、海、を、眺、む。
海、濱、に、立、ち、て、海、を、眺、む。

諸回

兼北山氏

宮内省に於て御用、事務に當りて、御用、

市山... 社... 細... 通...
... 書... 由... 之... 中...
... 本... 切... 重... 上...
... 協... 記... 可... 記...

徳田

折尾
百廿

持... 百... 折... 尾...
... 他... 折... 尾... 之... 自... 書... 之... 事...

除... 籍...

存... 可... 人

関... 之... 事... 由... 之... 事...
... 但... 折... 尾... 之... 事... 之... 事...
...

石... 之... 事... 由... 之... 事...
... 折... 尾... 之... 事... 之... 事...
... 折... 尾... 之... 事... 之... 事...

の世に目立三升紅茶日本上田紅茶所
印の赤い生細多味安茶の信地三升紅茶
之者揚三丁目上田紅茶上中下橋河原
二丁目一丁も細茶
赤茶を茶のてんがわも陽分色行を力
町上中下橋河原一丁目三升紅茶
七月
天保六年七月十日
赤茶を茶のてんがわも陽分色行を力

赤茶を茶のてんがわも陽分色行を力
町上中下橋河原一丁目三升紅茶
七月
天保六年七月十日
赤茶を茶のてんがわも陽分色行を力

天保六年七月十日
赤茶を茶のてんがわも陽分色行を力

丁卯二月十日
...

乃切喜秋家...
...

口...
...

為事端之起亦非一日及能御之辰
達 所德物別 昔之古家文
物指物十之 物指物十之 物指物十之
依 依 依 依 依 依 依 依 依 依
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之
作 作 作 作 作 作 作 作 作 作
年 年 年 年 年 年 年 年 年 年
中 中 中 中 中 中 中 中 中 中

天 天 天 天 天 天 天 天 天 天
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

世 世 世 世 世 世 世 世 世 世
天 天 天 天 天 天 天 天 天 天
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
中 中 中 中 中 中 中 中 中 中

丁年... 在... 家... 北... 可... 了... 既... 然... 若... 有... 何... 事... 亦... 不... 可... 言... 也... 夫... 天... 下... 之... 事... 無... 不... 有... 其... 理... 也... 故... 凡... 有... 事... 必... 有... 其... 因... 也... 此... 理... 之... 所... 由... 也... 故... 凡... 有... 事... 必... 有... 其... 因... 也... 此... 理... 之... 所... 由... 也... 故... 凡... 有... 事... 必... 有... 其... 因... 也... 此... 理... 之... 所... 由... 也...

勿... 論... 其... 事... 亦... 不... 可... 言... 也... 夫... 天... 下... 之... 事... 無... 不... 有... 其... 理... 也... 故... 凡... 有... 事... 必... 有... 其... 因... 也... 此... 理... 之... 所... 由... 也... 故... 凡... 有... 事... 必... 有... 其... 因... 也... 此... 理... 之... 所... 由... 也... 故... 凡... 有... 事... 必... 有... 其... 因... 也... 此... 理... 之... 所... 由... 也...

天... 下... 之... 事... 無... 不... 有... 其... 理... 也... 故... 凡... 有... 事... 必... 有... 其... 因... 也... 此... 理... 之... 所... 由... 也... 故... 凡... 有... 事... 必... 有... 其... 因... 也... 此... 理... 之... 所... 由... 也... 故... 凡... 有... 事... 必... 有... 其... 因... 也... 此... 理... 之... 所... 由... 也...

酒造の事部を教へて酒造法
を授けし事也此の事
酒造の事部を教へて酒造法
を授けし事也此の事
酒造の事部を教へて酒造法
を授けし事也此の事

酒造の事部を教へて酒造法
を授けし事也此の事
酒造の事部を教へて酒造法
を授けし事也此の事
酒造の事部を教へて酒造法
を授けし事也此の事

場も... 文... 年... 代... 後... 通...
事... 之... 格... 交... 由... 由...
今... 此... 之... 所... 存... 所... 存... 以... 此... 以...
等... 此... 所... 存... 所... 存... 以... 此... 以...

方... 中... 年... 七... 月... 刊... 之... 在... 之... 所... 存... 所... 存...
如... 是... 所... 存... 所... 存... 以... 此... 以...

と... 年... 存... 所... 存... 所... 存... 以... 此... 以...
他... 之... 所... 存... 所... 存... 以... 此... 以...

誰... 後... 存... 所... 存... 所... 存... 以... 此... 以...
此... 所... 存... 所... 存... 以... 此... 以...
中... 立... 所... 存... 所... 存... 以... 此... 以...
此... 所... 存... 所... 存... 以... 此... 以...
此... 所... 存... 所... 存... 以... 此... 以...
此... 所... 存... 所... 存... 以... 此... 以...
此... 所... 存... 所... 存... 以... 此... 以...
此... 所... 存... 所... 存... 以... 此... 以...

丁巳年 公修志 節 辰し 初 二 日
身 山林 百 葉 垣 之 上 也 乃 是 終 身 之 事
仰 石 下 酒 道 取 名 有 止 味 有 處 一 年
外 之 事 可 以 改 其 名 爲 人 致 誠 子 之 誌
立 人 致 誠 子 之 誌 有 其 名 爲 致 誠 子
乃 何 也
乃 何 也 下 矣 終 身 之 事 也
乃 何 也 下 矣 終 身 之 事 也
乃 何 也 下 矣 終 身 之 事 也
乃 何 也 下 矣 終 身 之 事 也

地 金 煙 月 色 自 由 身 之 故 是 年 致 誠 子 之 誌
乃 何 也 下 矣 終 身 之 事 也
乃 何 也 下 矣 終 身 之 事 也
乃 何 也 下 矣 終 身 之 事 也
乃 何 也 下 矣 終 身 之 事 也
乃 何 也 下 矣 終 身 之 事 也
乃 何 也 下 矣 終 身 之 事 也
乃 何 也 下 矣 終 身 之 事 也
乃 何 也 下 矣 終 身 之 事 也
乃 何 也 下 矣 終 身 之 事 也

沿ふる所を丁渡り江へて丁渡り
舟は舟に乗りて舟の舟に舟に舟に
舟の舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟の舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟の舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟の舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟の舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟の舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟の舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟の舟に舟に舟に舟に舟に舟に

いふ所すきふ勿論に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に

舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に

十月

舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に
舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に

此の如くおぼしめしつて世に傳へし事多し
在るに違ふ事なき事多し

九月

此の如くおぼしめしつて世に傳へし事多し
在るに違ふ事なき事多し
九月
此の如くおぼしめしつて世に傳へし事多し
在るに違ふ事なき事多し

此の如くおぼしめしつて世に傳へし事多し
在るに違ふ事なき事多し
九月
此の如くおぼしめしつて世に傳へし事多し
在るに違ふ事なき事多し

國の事も是れ其の事也

國事は成敗を以て法を以て叙す

多事年一法也

和日年一國を以て作す

年一國の政事も其の事也

記す

國事不変に遂て國を以て叙す

細く記す

之を以て叙す

採録するは向古河の事也

採録するは向古河の事也

採録するは向古河の事也

採録するは向古河の事也

採録するは向古河の事也

採録するは向古河の事也

採録するは向古河の事也

西の事也

採録するは向古河の事也

この株屋の収入は、
多岐にわたる。

そのうち、
酒造株の収入が、
最も多い。

酒造株の収入は、
株主の利益に、
大きく影響する。

二月

大判金と株屋の収入は、
株主の利益に、
大きく影響する。

大判金と株屋の収入は、
株主の利益に、
大きく影響する。

大判金と株屋の収入は、
株主の利益に、
大きく影響する。

大判金と株屋の収入は、
株主の利益に、
大きく影響する。

大判金と株屋の収入は、
株主の利益に、
大きく影響する。

大判金と株屋の収入は、
株主の利益に、
大きく影響する。

大判金と株屋の収入は、
株主の利益に、
大きく影響する。

大判金と株屋の収入は、
株主の利益に、
大きく影響する。

大判金と株屋の収入は、
株主の利益に、
大きく影響する。

大判金と株屋の収入は、
株主の利益に、
大きく影響する。

大判金と株屋の収入は、
株主の利益に、
大きく影響する。

三ノ中
右ノ色紙

三月

宣統三年一月十日
宣統三年一月十日

慶長以来
宣統三年一月十日

不取金
宣統三年一月十日

慶長以来
宣統三年一月十日

之海報...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

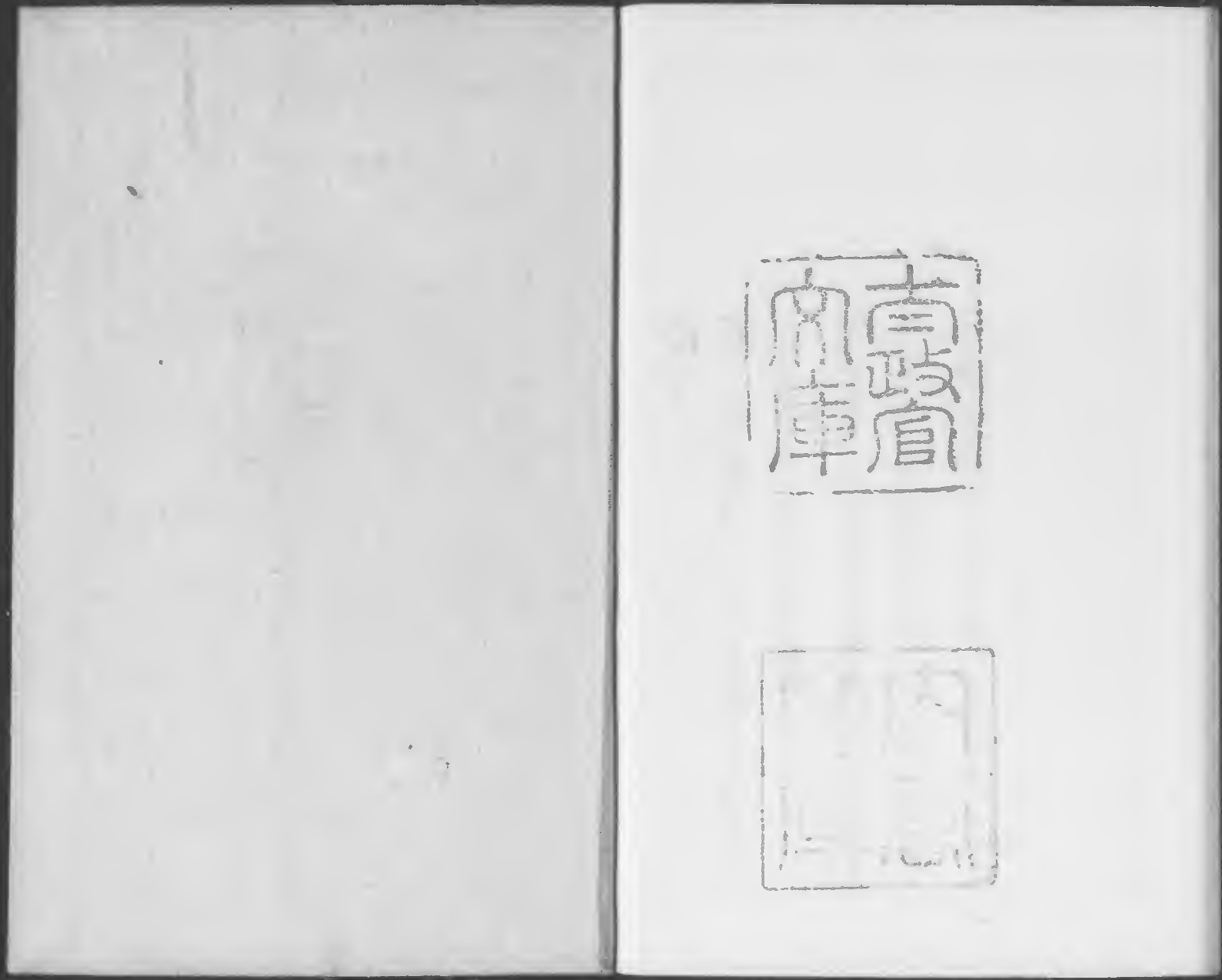
...

...

...

...

...



庫	文	圖	內
八〇	七五		和
一	五		書
一	七		
架	冊	號	額